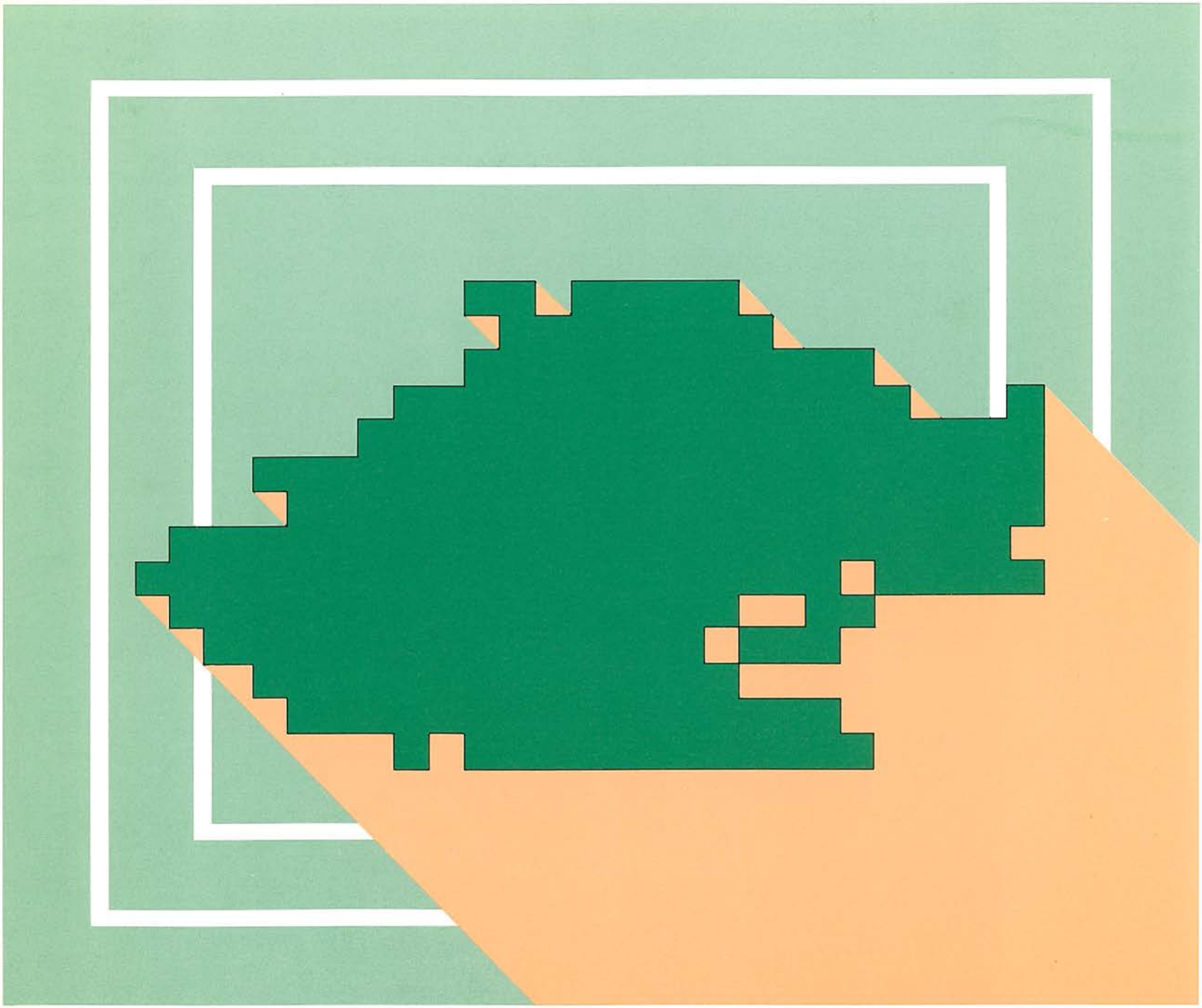
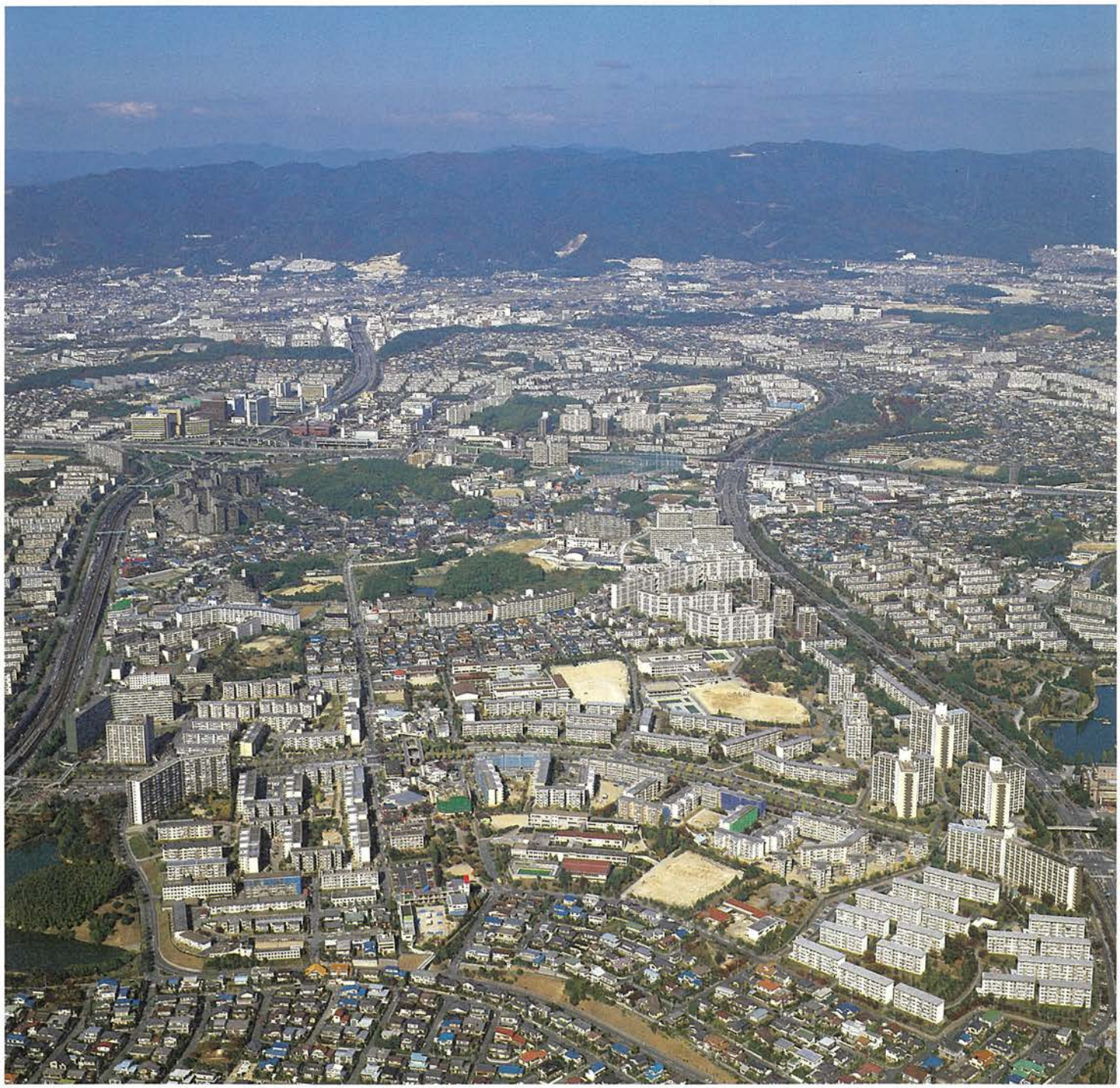
SENRI NEW TOWN

千里ニュータウン





ニュータウン建設の目的

大阪府では、昭和30年に、ようやく安定期を迎えつつあった大阪府の将来を見透すビッグプロジェクトの検討を始めた。当時の大都市及びその周辺における人口の増加は著しく、都市化の傾向はとどまることなく進行し、加えて世帯細分化傾向も相まって、増加する人口の大半は大阪市の周辺部に住居を求めた。これら地域では民間アパートや文化住宅などが急増し、田畑は虫食い状態に宅地化され、いわゆるスプロール現象となってあらわれつつあった。

このような住宅の大量の需要と、市街地及びその周辺部の地価の異常な上昇に対処して、安価な住宅を大量に供給するためには、従来の住宅団地開発の手法では、不十分であった。

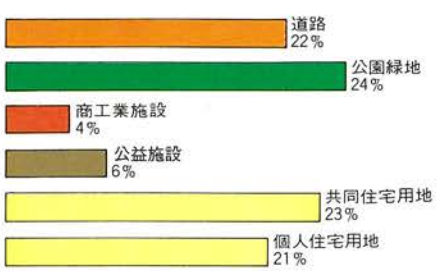
また、所得水準や生活水準の向上にともない住民の価値観も次第に高度化し、量的な面からの住宅の確保だけでは十分ではなくなり、住宅そのものの質の向上と共に良好な居住環境の確保が要求されることになった。

このような事情を背景に、大阪府では、宅地開発が単なる住宅建設のみにとどまらず、道路、公園、上下水道、教育、医療、商業等の諸施設を総合的、計画的にあわせて建設することにより、良好な居住環境をもった住宅市街地を開発することを目指

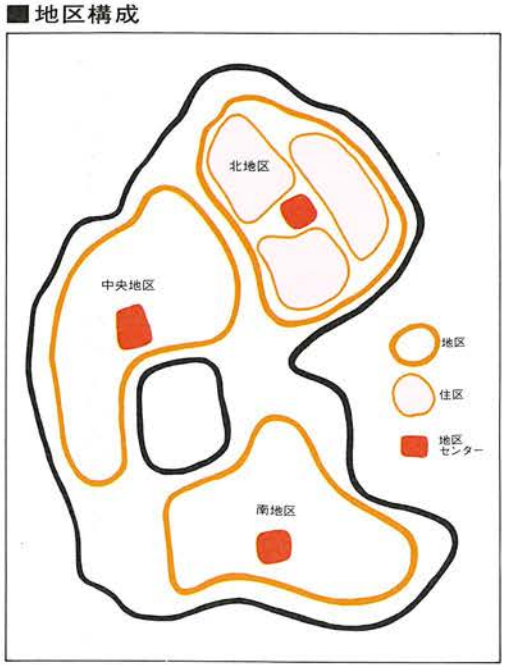
■住区構成

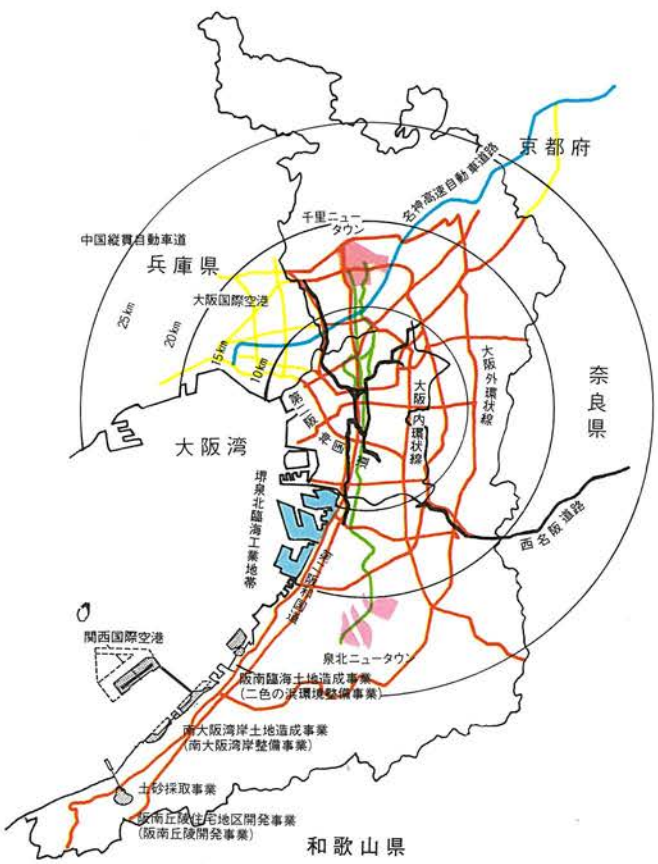


■土地利用計画



■地区構成





し、昭和33年千里ニュータウンを建設することになった。

大阪府は全国府県中、最も面積が狭く、大阪市の中心から北と東に約20キロメートル、南は30キロメートルで、標高300メートル以上の山地に達する。しかも平坦部は既に市街化が進行し残された開発適地に乏しい。したがって、周辺丘陵部に開発適地を決定するについて、種々検討された結果、大阪市から比較的近距離にあって鉄道、道路、上下水道などの関連投資が少なくて済み、また民間小規模開発の動向が見え始めている千里丘陵を、まず第一に着手することになった。

また千里丘陵にひき続いて、昭和39年には、千里ニュータウンを上まわる規模の泉北ニュータウンの建設が決定され、建設が進められた。

開発前の原況

大阪市の北方約15キロメートル、国鉄東海道線、国道171号線、国道176号線に囲まれていた一帯で、北摂山系から大阪平野に向って突出隆起していたこの洪積台地は、標高30メートルから130メートル、複雑に入り組んだ谷間から成っていた。開発前の土地利用は、田、畑、竹藪、果樹園のほか、雑木林がほとんどを占め、中心部に戸数約300戸の上新田集落と大阪市の総合福祉会館(弘済院)があった。この千里丘陵のほぼ中央部1,160ヘクタールのところに千里丘陵住宅地区開発事業の実施が決定された。

基本計画

千里ニュータウンは、面積1,160ヘクタール、戸数37,330戸、人口15万人、昭和35年「一団地の住宅経営」の都市計画事業としてスタートし、昭和38年新住宅市街地開発法の制定に伴って、昭和39年4月以降は新住宅市街地開発事業として施行された。た。

千里ニュータウンは、典型的な近隣住区理論によって段階的に構成された住宅都市である。居住者の日常生活圏の各段階やコミュニティー形成の各段階に応じ幼児の生活圏と母親の直接監視が可能な圏域の隣保区(近隣グループ)から始まり→近隣分区→近隣住区→地区→住宅都市と広がってゆく。近隣住区は、児童、主婦を主とした日常生活圏で、ニュータウンを構成する基本単位である。小学校の通学圏は住区の規模を決定する一つの要素で、住区は小学校区でもある。面積60～100ヘクタール、戸数2,500～3,500戸の規模で、住区の中心には近隣センターが設けられている。住区が3～5集まって地区が構成される。ニュータウン全体で3地区12住区の規模となっている。

■着工年度別建設戸数

種別＼年度	36	37	38	39	40	41	42	43	44	計
公営住宅	750	1,252	1,500	2,022	1,998	1,500	720	340	300	10,382
公社住宅	150	350	550	700	1,121	610	400	1,307	675	5,863
公団住宅			930	1,826	2,419	1,617	600	1,760	1,140	10,292
給与住宅		58	824	270	360	428	260	849	1,671	4,720
分譲住宅	110	822	975	319	1,157	751	710	191	1,038	6,073
計	1,010	2,482	4,779	5,137	7,055	4,906	2,690	4,447	4,824	37,330

住　宅









・住宅計画

千里ニュータウンは、従来の団地のような母都市一辺倒の単なるベッドタウンではなく独立性のある一つの住宅都市として計画された。偏りのない安定した定住性の高い住宅都市をつくるためには、居住者は各種社会層に属し、適度に混合されていることが一つの理想である。そのため居住者の世帯構成、収入、年令構成、生活習慣等の異なる公営、公社、公団、給与、独立の各種住宅を積極的に混在させた。

住宅の配置は原則として、近隣センターに近いところに高密度アパートを建設し、周辺部に低密度の分譲住宅を建設して近隣センター等各施設の利用効率を高めている。

アパートの配置は、丘陵の変化に富んだ地形を生かして、広い空地（オープンスペース）をとり囲むように建てられ、その広場は、そこに住む住民の共通の場として利用し、お互いの近隣意識を高めるようにしている。また、外壁の色彩についても、テストケースとして、カラーコントロールを取入れる等、従来よく見られる平行配置にありがちな単調さをすくっている。

一戸建の分譲住宅については、住宅地内の通過交通をできる限り少なくし、落ち着いた環境となるように配置されている。

商業施設

千里ニュータウンでは、人々のあらゆる消費活動のうち、地区内でサービスしうるものは施設の計画的配置によって最大限にこれを定着させていくという計画で進められた。

在来のベッドタウンでは、食料品等日常単位以外の買物や娯楽等の大部分が母都市の施設に頼っており、寝食以外は、すべて母都市でまかなうという生活が一船的であった。15万人という人口規模を持つ千里ニュータウンは、こういう母都市依頼の生活から、消費活動はできるだけ母都市から地区内へ呼び戻すことを計画の基本とした。

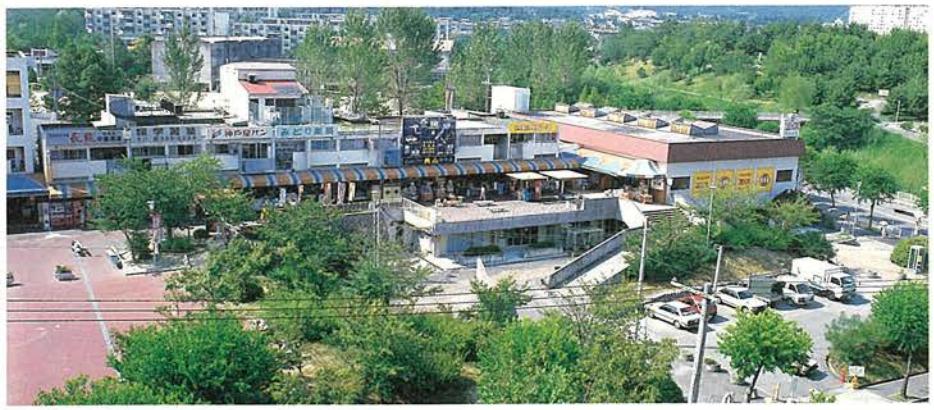
商業施設の構成は、住区構成に対応した段階構成によるもので、都市中心—地区中心—住区中心という系統を確立し、日常の近隣的需要に応じてサービスエリアの狭いもの（日単位の買物）と、利用頻度がそれより低くサービスエリアの広いもの（週、月単位の買物）に分け、それぞれに対応して近隣センター、地区センターという集団施設地区を構成するよう計画された。

・近隣センター

近隣センターは、特に住区内のショッピングセンター的な色彩を強く打ち出そうとするもので、生鮮食料品を主体とする市場・スーパーマーケット、日常雑貨を扱う小売店舗、飲食喫茶、美容・理容等の店舗をセンターの核として構成し、他に郵便局、警官派出所、集会所、管理事務所などの公共的施設が配置されている。また、購売客のための歩行専用歩路と、商品・器材搬入用のサービス路とを分離し、これらの動線が交差しないよう商店街としての雰囲気と環境を確保するよう心がけられている。

・地区センター

地区センターは、近隣センターで得られない各種都市サービス施設が設置され

















ているもので、鉄道駅を核にし、商業施設、教養娯楽施設、業務施設、各種公共サービス機関が一体となって集中的に配置され、鉄道によって外部と結ばれる活発なオープンコミュニティが形成されてる。またバスルートの基点ともなっている。

中央地区センターは、中央地区４住区（I，J，K，L）のセンターであると同時にニュータウン全体の中心として規模も大きく、施設密度も高く、そのうえに新都心としての機能も加わり、都会的雰囲気の高いセンターとなっている。敷地面積は28ヘクタールで主な施設としては鉄道駅を軸に南北に細長く配置された130店余りの専門店、それと直交して２つの百貨店がペデストリアンデッキと地下道によって結ばれている。これらの商業施設のまわりにはセンタービル、文化センター、娯楽センター、ホテル、駐車場等が配置されている。御堂筋線の西側一帯は、新都心計画により導入された銀行・保険会社・商社のコンピューターセンター等オフィスビル街となっている。この一角には地域冷暖房を行うエネルギープラントがあり地区センター内を縦横に走る共同溝を経て冷温水を各建物に送っている。

北地区センターは、北地区３住区（F，G，H）を対象としたセンターで、南地区に比べて山の手の様な周辺環境を持ち、終着駅でもあることから広場を持った緑の多い憩いのセンターとして計画された。主な施設は、商店街、センタービル、地区公民館、オフィスビル、バス・タクシーのターミナル、駐車場などである。

南地区センターは、南地区５住区（A，B，C，D，E）のセンターである。敷地が平坦で開放的な環境にあり、地区の持つ下町的雰囲気に合せて計画された。主な施設は、駅を中心とした商店街、センタービル、市民センター、バス・タクシーのターミナル、駐車場などである。

教育･医療施設

・教育施設

小学校は、住区の中央付近に位置し、住区理論の中心をなすものである。そして住宅から学校まで、できるだけ幹線道路を横断することなく通学できるよう専用歩道に面して設けられている。

中学校は２住区に１校とし、中学校区内の各住宅から通学しやすい位置に設けられている。

幼稚園は私立幼稚園が11ヵ所、公立幼稚園が２ヵ所設けられている。また保育所は、公私立あわせて10ヵ所が開設されている。

高等学校は全地区に４ヵ所（府立高校３校・私立高校１校＝中学校と短期大学を併設）あり十分な敷地が確保され、自然景観に恵まれた周辺部に配置されている。

・医療施設

各住区の診療所には、内科、外科、小児科、産科、歯科、耳鼻科、眼科など４～６の開業医が集められ、その住区の人達の健康管理を受け持っている。

また南地区センターの北側に300床を持つ新千里病院があり、住区診療所とはオープンシステムにより結ばれている。

（※オープンシステムでは、病院の診療設備を開業医が利用し、入院患者は原則として開業医を通じて送られ、病院の専属医師のほか、開業医も担当患者の主治医として診療にあたる。）

さらにその南側には、大阪府立千里救命救急センターや大阪府吹田保健所千里支所などが収容された千里保健医療会館が建設されており、新千里病院とともに地域医療の中核的役割を果たしている。

また千里北公園の北側には、我が国でも有数の高度専門的医療機関である国立循環器病センターが建設されている。







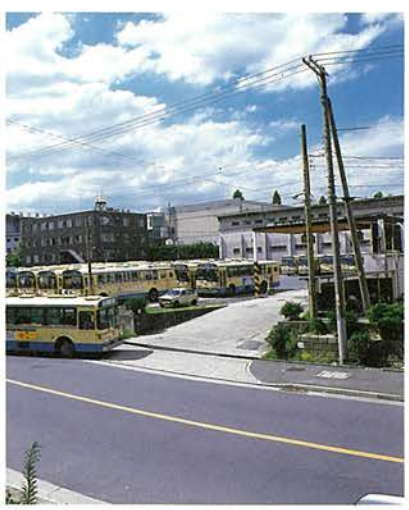


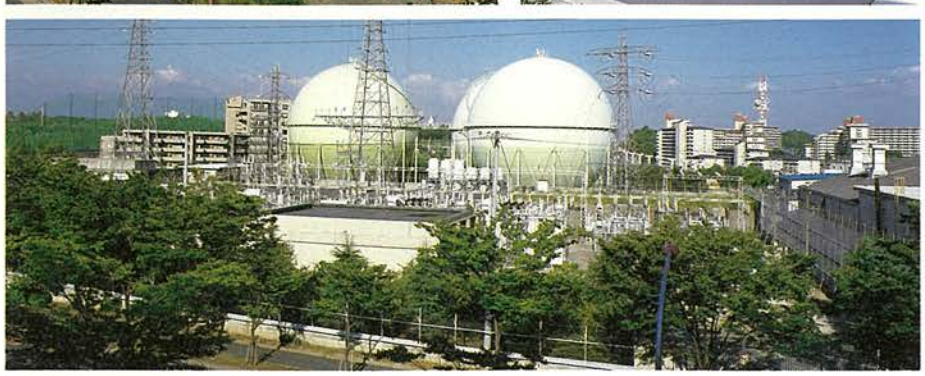


上下水道・サービスセンター









上・下水道幹線図



・上下道

原水は大阪府営水道より供給を受け原則として自然流下方式を採用し、一部高地区に対してはポンプ圧送を行っている。

・下水道

下水道は公共下水道とし、分流式を採用している。雨水管は専ら降雨による流出を受け持ち、汚水管は水洗便所、家庭雑排水等雨水以外の下水を受け持っている。

これら上下水道施設は企業局が事業者となって施行し、建設完成後所在市に移管された。

・河川改修

公共下水道より放流された雨水は高川、正雀川、山田川、天竺川の各河川により排水される。千里丘陵の開発に伴って高川は約4.27km、正雀川は約3.10km、山田川は約6.00km、天竺川は約7.75kmが改修されている。

・サービスセンター

千里ニュータウンのような規模の大きな住宅都市では、従来の団地などにはない特殊な施設を必要とする。家屋維持のための各種修理店舗、バス・タクシーなどの車庫、倉庫、運送店、さらに電報電話局、都市ガスの供給所、変電所などの公共的都市サービス施設などである。

中央サービスセンターには、電報電話局、普通郵便局、電力会社営業所をはじめ、自動車修理工場、運送店、百貨店配送所、バス車庫などが設けられている。また、住宅の維持管理に必要な工務店、ガラス・畳・建具などのメンテナンスショップが配置されている。

東サービスセンターには、ガス供給所と変電所などの施設が置かれている。

その他、ニュータウン内の吹田、豊中両市域にそれぞれ１ヵ所ずつ消防署が設けられている。

公園・緑地

千里ニュータウンの公園・緑地は近隣住区理論にもとづいて、プレイロット・児童公園・近隣公園・地区公園および周辺緑地などコミュニティーの段階に応じて相互系統的に配置されている。

プレイロットは幼児のための小さな遊び場で、砂場やブランコなどの遊具があり、街区の内部の宅地に隣接した安全な所に配置されている。中高層住宅群では200～300戸に１ヵ所、分譲住宅群では50～100戸に１ヵ所の割合で配置されている。誘致距離はおよそ100メートルである。

児童公園は砂場やブランコなどの遊具のほかにボール遊びのできる広場があって、１住区１～２ヵ所の割合で配置されている。その誘致距離はおよそ250メートルであるが、距離的にその配置が近隣公園の位置と同じになる場合には、近隣公園に児童遊具を設けている。

近隣公園は１住区に１ヵ所、なるべく住区の中心部に配置されているが、やむを得ず住区のすみに配置されたり、その公園の大半が池であったり、急傾斜地であったりする場合には、同一住区内に更にその公園を補足する新たな公園が配置されている。それらはいずれも地形をうまく利用した運動広場と回遊式園路のある休養公園である。その誘致距離はおよそ500メートルである。

地区公園は南、北、中央の３地区に配置され、プール、つり、大芝生地、展望台など全住民を対象とした規模の大きいレクリエーション施設が設けられている。

周辺緑地は、地区の環境保全をはかり、またこれを積極的に利用して、キャンプ場、野球場、テニス・バレーボールコート、散策路など地区公園を補充して全住民の利用を対象とした施設が設けられている。











交通施設









・道　路

都市計画道路７路線によってニュータウンは12の住区に分けられている。各々の住区内には、住区内発生交通を処理し、諸施設を有機的に連絡する住区内幹線道路が通っている。住区内幹線道路は都市計画道路とともにバス運行路線ともなっており、またこの道路は原則として通過交通を避けるような配置になっている。幹線道路の他、さらに住宅街区を構成する区画街路、宅地にサービスする細街路などがある。

当初、道路は歩道を有するものとの方針で計画が進められていたが、その後歩車分離の思想をとり入れ、主要幹線道路と歩行者とを分離し、両者は立体交差で処理すべく、各所に歩道橋を設置するよう方針がきり替えられた。鉄道駅のある地区センターにおいては特にこの方針を徹底させている。

また、千里中央筋は一部区間において巾員50メートルのうち30メートルを緑道として整備することにより公園道路としての性格を有している。

・鉄道・バス

昭和38年８月、千里ニュータウンに鉄道が開通した。阪急電鉄千里線が千里山駅から約1.5km北へ延長され、南千里駅が設置された。次いで昭和42年３月、南千里駅から北千里駅までの約３．4kmが開通し、吹田市域住民の足が確保された。

一方、豊中市域住民の足としては、北大阪の新都心として計画された中央地区センターと大阪都心部を直結する北大阪急行電鉄が昭和45年２月に開通した。阪急電鉄千里線が大阪市地下鉄堺筋線と、北大阪急行電鉄が同御堂筋線とそれぞれ相互直通運転されている。

また大阪国際空港と南茨木（阪急京都線）とを結ぶ大阪モノレールの千里中央―万博公園間の建設工事が進められている。

ニュータウン内は、各駅からバスにより主要施設、居住地が連絡されている。

千里ニュータウンの周辺

千里ニュータウンは、開発以来20数年を経過し、今や緑豊かな住宅都市として成熟した姿をみせているが、国土軸に位置し、道路・鉄道・空港等の交通アクセスが至便なこともあり、周辺地域と一体となって美術・学術・文化機能をあわせもった北大阪の新都心として成長してきている。

・大阪北摂霊園

箕面市、茨木市、能勢町にまたがる北摂山系の静寂の地に公園的な雰囲気を持つ近代的な霊園（２万７千基）が昭和43年から建設されている。計画面積99.8ヘクタール、千里ニュータウンおよび周辺市町住民をはじめ広く府民の墓地需要に応じるため大阪府企業局が用地買収、造成工事等行い、財団法人大阪府千里センターが霊園経営に当っている。

・大阪国際空港

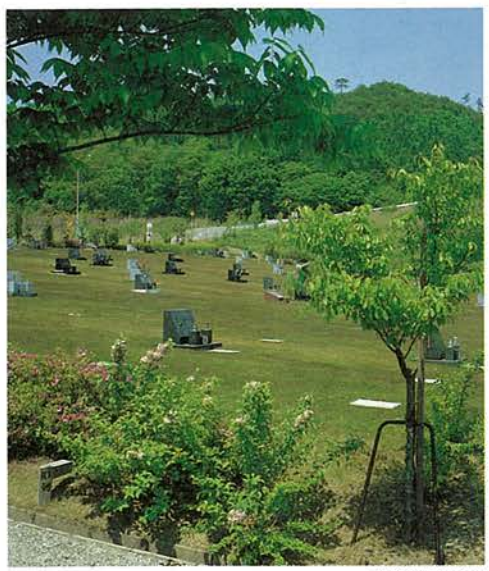
大阪国際空港は、西日本航空網の中心として、１日約350機余りが発着する国際空港である。面積は317ヘクタールで、3,000メートルと1,828メートルの滑走路２本がある。千里ニュータウンからは大阪中央環状線で結ばれており約15分で空港に到着することができる。

・新大阪駅

新大阪駅は、昭和39年10月新幹線の開通と共に新設された。１日の乗降客は約18万人。千里ニュータウンの南８キロメートル、大阪駅とニュータウンの中間に位置し、千里ニュータウンとは新御堂筋と北大阪急行電鉄により直結されている。

・服部緑地

服部緑地は、千里ニュータウンの南西部にあり、面積は125.9ヘクタールの総合公園である。陸上競技場をはじめ、水泳プール、テニスコート、野球場など運動施設と、野外音楽堂、都市緑化植物園や



大阪北摂霊園



大阪国際空港



新大阪駅



服部緑地



万博記念公園



テキスタイルセンター

自然景観を生かした民家集落、ユースホステルなどがあり、年間400万人程度の利用者がある。

・明治の森

明法の森箕面国定公園は、「明治百年記念事業」の一つとして、東京の「高尾山」と共に国定公園に指定された。この公園は千里ニュータウンの北５kmにあり、面積は963ヘクタール。ここには紅葉と滝で有名な府営箕面公園や東海自然歩道の終点となる勝尾寺がある。

・万博記念公園

昭和45年３月15日から６ヵ月間、〝人類の進歩と調和〟をテーマに、アジアではじめて万国博覧会が開催された。この会場は千里ニュータウンに隣接し、敷地面積は約330ヘクタール、ここに世界各国の展示館が建ちならび、娯楽施設や人工湖、日本庭園などが設けられた。現在この跡地は万国博記念公園として府民に利用されており、この中には国立民族学博物館、国立国際美術館、エキスポランド、府立国際児童文学館などが設立され、学術・文化・スポーツ・レクリエーション等の拠点をなしている。

・船場繊維団地（テキスタイルセンター）

千里ニュータウンの北側に隣接する箕面市にある船場繊維団地は、大阪市内の繊維関連会社が物流機能の合理化を目的として移転してきた産業団地であり、面積は約73haに及ぶ。

・大学、研究機関

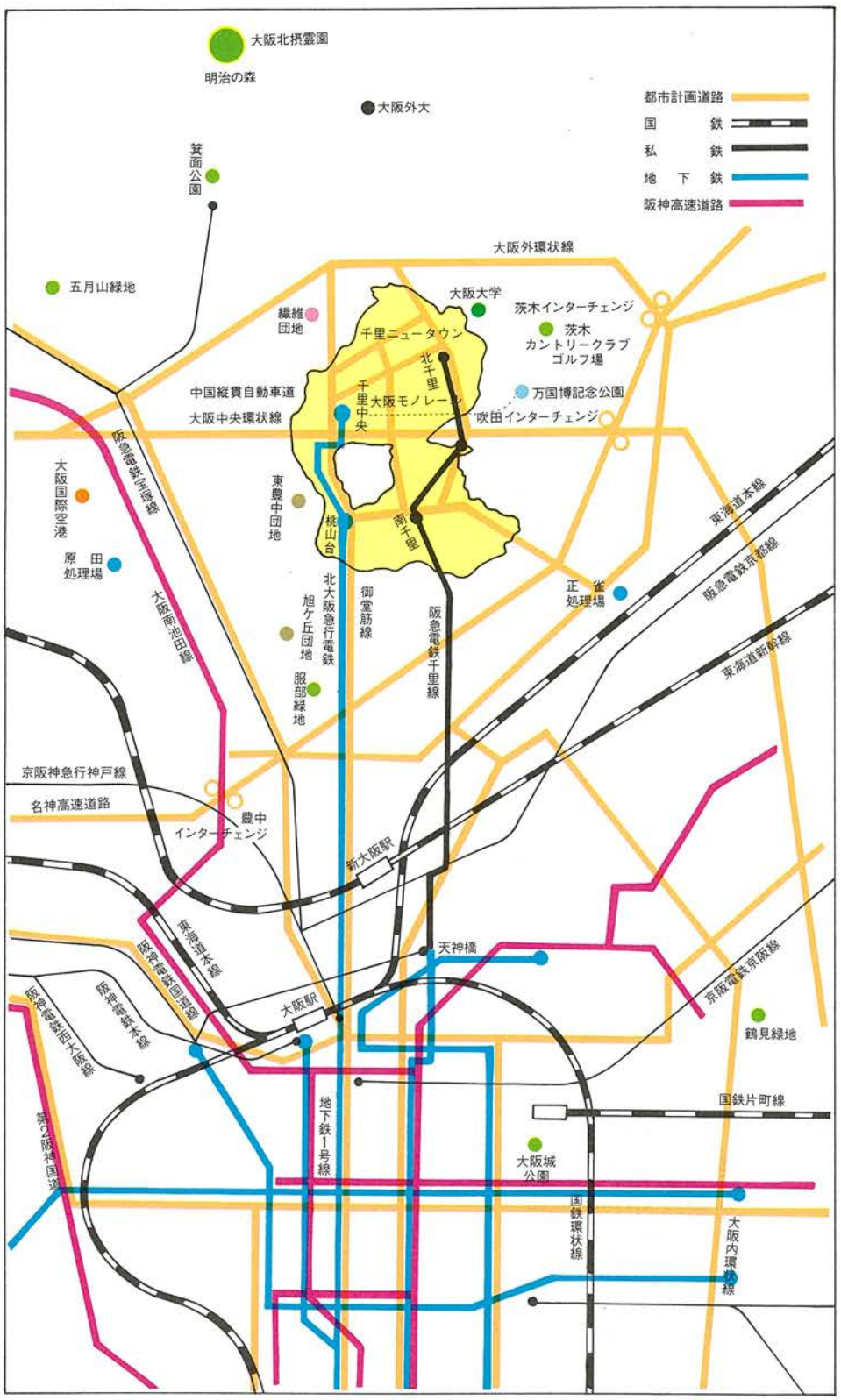
千里ニュータウン周辺には、大阪大学や大阪外国語大学などの高等教育施設が立地し、国際的な学術・文化・研究活動の集積、交流の場として北大阪国際文化ゾーンの中核をなしている。



周辺関連図

開発略史

32・5　住宅対策の一環として千里ニュータウンの開発計画を検討。
33・5　千里ニュータウンの開発を決定
34・2　第１回用地買収契約締結(佐井寺・下新田)。
　　4　千里ニュータウン開発計画案を公表。
35・7　企業局、３部６課２所で発足。
　　10　マスタープラン正式決定。
　　10　A・B・C・D・E住区、都市計画一団地の住宅経営決定、同事業決定。
36・3　千里１号線街路築造に着工。
　　6　C住区(佐竹台)宅地造成着工。
　　7　千里ニュータウン起工式。
37・9　C住区(佐竹台)府営住宅入居開始。
　　11　財団法人　千里開発センター発足。
　　11　千里ニュータウン町びらき式。
38・3　F・G・H住区、都市計画一団地の住宅経営決定、同事業決定。
　　8　阪急電鉄千里線、南千里駅まで延長開通。
39・4　D・E・I・J・K・L住区、都市計画(新住宅市街地開発事業)決定、同事業決定。
42・2　新千里病院開設。
　　3　阪急電鉄千里線、北千里駅まで延長開通。
　　12　中央地区センター構想発表。
44・11　千里ニュータウンの人口10万人突破。
45・2　中央地区センター地域冷暖房施設運転開始。
　　2　北大阪急行、地下鉄御堂筋線(新大阪―江坂)営業運転開始。
　　3　千里中央地区センター　百貨店・専門店街オープン。
45・3　新住宅市街地開発事業完了。
48・11　北摂霊園開園
52・7　国立循環器病センター開設。
53・4　千里中央文化センター、南千里市民センターオープン。
54・9　千里保健医療会館完成。
54・12　府立千里救命救急センター開設。
55・4　北千里市民体育館開設。
56・3　北千里地区公民館開設
57・5～11　千里20年まつり開催。
　　10　千里ニュータウン開発記念室開設。



所要時間

梅田 阪急千里線(27分) →南千里駅 (4分) →北千里駅
大阪駅 国鉄(4分) →新大阪駅 北大阪急行(13分) →千里中央駅
梅田 地下鉄御堂筋線(6分) →新大阪駅 北大阪急行(13分) →千里中央駅
大阪国際空港 阪急バス(25分) →千里中央

大阪府企業局